

平成28年度 津山市立（林田）小学校

改善プラン「平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査」今後の取組について進捗状況（年度末）

津山市 達成目標	これまでの取組やたしかめテスト等から 【平成29年度全科目で岡山県平均点を超える】見込み	算数A B . . . 「小数の加減乗除」の設問で正答率が低い。 国語A B . . . 記述式の問題で正答率が低い。	
	学校の取組・改善方法（課題に対する改善方法）	進捗状況	来年度へ向けて（具体的な達成目標・数値目標）
市全 体の 取組	「問題データベース」を活用し、A問題の課題のあった類似問題を取り上げ、授業中や朝学習または放課後学習の中に位置づけ、学年団で共通して取り組む時間を設定する。	B	・高学年は、放課後補充学習で「問題データベース」を活用し、学年団で共通して取り組んでいる。（前学年全単元中60.4%実施済み） ・B問題の活用にも一層取り組む。
①	高学年を対象に放課後補充学習を行う。教材は「問題データベース」を活用し、前学年の単元の中からつまずきが見られるものを考慮しながら偏りがないように取り組む。間違った問題の直しをすることで、基礎の定着をはかる。	A	・各学年で「問題データベース」を活用し、つまずきに対応した問題に取り組んだ。高学年では、既習内容の積み残しがないように前学年の単元を偏りなく実施した。（100%） ・5年生では、5年の内容の復習とB問題への対応問題も実施した。
②	国語で記述式の回答の力をつけるため、全学年で読解ドリルを購入し取り組む。	B	・記述式問題の無回答をなくすよう、文字制限や書き出しの指定などの条件を付けて文を書かせる指導を行った。（90%） ・読解ドリルを全学年で導入することはできたが、国語の「問題データベース」の活用は十分にできなかった。（70%）
③	「親子でチャレンジ」の取り組みをすることで、「家庭への啓発」と「家庭学習の習慣づけ」を図る。	A	・「親子でチャレンジ」の取り組みは2学期末を上回って92.9%の家庭で取り組むことができた。次年度もさらに啓発していく。 ・児童アンケートで家庭学習のスコアが昨年の同時期より上がった。1時間以上の回答は6.8%増。しかし、30分以下の児童の割合も上がっており、次年度はポイントを絞って手立てをうっていく。

※進捗状況・「S：目標を大きく上回った（100%を超えている）」「A：目標を十分達成できた（85%以上100%未満）」「B：目標を概ね達成できた（70%以上85%未満）」
「C：目標をある程度達成できた（50%以上70%未満）」「D：目標をあまり達成できなかった（30%以上50%未満）」「E：目標を達成できなかった（30%未満）」